

セーヌ左岸の恋 エド・ヴァン・デル・エルスケン

2003.1.24 (Fri) — 2.23 (Sun)
 東京都写真美術館 2階展示室
 時 間：10:00 - 18:00 (木・金は20:00 / 入館は閉館の30分前) 月曜日休館
 入 場 料：一般 ¥1,000 (前売 / 団体 ¥900) 中高生 ¥800 (前売 / 団体 ¥600)
 □小学生以下無料
 □障害をお持ちの方とその介護者一名は無料。(障害者手帳要)
 □東京都写真美術館友の会会員の方 / 団体20名以上の場合は前売り価格
 □第三水曜日は65歳以上無料 (証明するものをご持参下さい。)

併設展示
 巴里時代 / エルスケン
 「おとこと女」抜粋資料作品 / 細江英公
 詩 山本太郎
 ビデオ上映

主催：東京都写真美術館 後援：オランダ大使館 協力：東京書籍 制作：conversation / NADIFF



青春が軋んでいる！ 50年代サンジェルマン・デ・プレ、希有な時代、希有な場所 が生んだ物語
 狭義の写真芸術界に止まることのなかったストリート・フォトの先駆者エルスケン。時代のきしみてどうしようもなく生きるアウトサイダー達を映画的手法で撮影した非演出のフィクション。



「セーヌ左岸の恋」、この作品のオリジナル写真は、作家自らがあくまでもレイアウトの為に引き伸ばしたもので写真集と同寸形態のものであった。それ故、今回の写真展も各々の写真の配列と比率が作者において、そして作品理解の点においても重要な意味を持つという点を生かし、全てを同等に整列配置するのではなく、そのオリジナルの雰囲気そのまま展示用に拡大再現しようという試みである。尚、資料展示として同時期にエルスケンがパリで撮影した作品とエルスケンとの交流が語られる細江英公の「おとこと女」(抜粋)を資料的に展示する。また主人公アン(画家であるヴァリ・マイヤーズ)を撮影したエルスケンのビデオを日本で初公開する。



セーヌ左岸の恋

ストリート・フォトの先駆者エド・ヴァン・デル・エルスケンの処女作品がこの「セーヌ左岸の恋」であり、その中では第二次世界大戦直後のパリ、サンジェルマン・デ・プレのカフェに集まるアウトサイダー達の現実を見事に写し出している。「写真に添えられている物語はいかなる実在の人物とも関連しない。」と書かれているこのフォトストーリーは、写されている演出抜きの現実の集積から虚構を構成している。しかしながら、被写体はエルスケンのパリ時代の周辺にいた仲間たちなのであり、当然その物語は自伝的映像でもある。

エルスケンの写真が私たちに訴えかけるのは、あらゆるものが否応なく変化の中で、時代のきしみに投げ出されてしまっているながらもどうしようもなく存在し続ける者達への愛なのだろう。

Ed van der Elskén / エド・ヴァン・デル・エルスケン

1925年オランダ、アムステルダム出身。24歳の時小銃とカメラを持ってパリ、サンジェルマン・デ・プレに移り住む。その後、彼はニューヨーク近代美術館のキュレーターでもあったエドワード・スタイケンに見出される。スタイケンは無名の写真家エルスケンに彼の主催する展覧会に参加するように促し、次の展覧会ではカル・チェ・ブレッソンやロベール・ド・ノアたちを差し置いて、最大のスペースを割いた。そしてその作品群を写真集にまとめるように求め、完成した「セーヌ左岸の恋」は瞬く間に世界の話題となる。美しい美学的構図の傑作写真を求められていた時代に、彼は特異な表現の作家として選ばれる。彼の選が被写体同様に「はぐれ者」扱いであった。それでも彼は常に対象と同じ目線で同じ雰囲気を感じ出しながらシャッターを切っていく。その後アフリカを撮った「バガラ」を1958年に出版。1966年に「スイート・ライフ」。1988年「日本だった」出版。1990年には癌に侵されている自分の病状を撮ったフィルム「バイ(bye)」を制作。また、回顧的写真集「ワンス・アポン・ア・タイム」の制作。同年2月28日、エダムにて死去。享年65歳。50年代の終りに映画カメラを回し、その後も連続スライド、TVカメラと一枚の写真以外の映像メディアへの関心を実現していった。彼は狭義の写真芸術界に止まる存在では決してなかったのである。



東京都写真美術館

〒153-0062
 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
 アクセス：JR恵比寿駅東口より徒歩7分
 TEL：03-3280-0099
<http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>

併設展示 巴里時代 / エルスケン 「おとこと女」抜粋資料作品 / 細江英公 詩 山本太郎 ビデオ上映

細江 英公 略歴 1933年山形県米沢市生まれ。幼年期より東京で育つ。1954年東京写真短期大学(現東京工芸大学)技術科卒業。63年作家三島由紀夫を被写体とした写真集「露降刑」で評価を確立し、70年『鎌倉』で芸術選奨文部大臣賞を受賞。その他の写真集として「おとこと女」「泡鳴」「ガウディの平屋」など多数ある。現在、社団法人日本写真家協会副会長、日本写真芸術学会副会長、東京工芸大学芸術学部教授、清室フォトアートミュージアム館長。

山本 太郎 略歴 1924年11月8日生～1988年11月5日死去。美濃家山本(かなえ)の長男。母系家は北原白秋の妹。東大独文科卒業。草野心平らが創刊した「歴程」の同人となり、旺盛多量の詩業によって戦後詩壇の旗手と謳われた。1960年刊の詩集「コリナ」で高村光太郎賞受賞。1969年刊の「藤王記」で読売文学賞。1975年刊の「ユリシズ」で歴程賞を受賞。

【チケット取扱い / 前売】 チケット発売日

10/20(日) ■東京都写真美術館ミュージアムショップ 03-3280-3279 ■チケットぴあ Pコード：〈前売〉683-942 〈当日〉683-943 「コンビニエンスストア・セブン・イレブン、ファミリーマートにて発売」
 ■ローソンチケット Lコード：〈前売〉31708 〈当日〉31716 「コンビニエンスストア・ローソンのLoppiにて発売」 ■NADiff 03-3403-8852 ■JR恵比寿駅みどりの窓口

総合お問合せ： conversation TEL:03-5280-9996 <http://www.conversation.co.jp>